

1. 題目は、一行めの三はんめか四はんめのマスから書きましょう。
2. 半行・半字・組・氏名は二行めに書きましょう。
3. 文章は三行めから一字書いて書きはじめましょう。
4. 文章の構想をしっかり立ててから書きはじめましょう。各段書のはじめはかならず一字書いて書きはじめ、一つの段書が終わったら行を空きましょう。

（ ） 月 日 曜日

障がいには不便だけど不幸じゃない  
 輝北中二年 山口 瑞稀  
 「おばあちゃん」  
 おばあちゃんの家に来て、鍵を開けてもらう。  
 おばあちゃんがいるところから玄関まで二、  
 三メートルぐらいしかない。だけど鍵が開く  
 まで三十秒ぐらいかかった。その時、私は、  
 「さすがにもう少し速く歩けるんじゃないの  
 と少しいらった。  
 おばあちゃんに「もう少し速く歩けないの  
 中学校」  
 と聞いてみると、四歳のときに足が痛くなっ  
 て、小学校は杖をついて通学していたそう  
 原因は結核菌による左股関節機能障害だ  
 そうだ。原因がはっきり分かったのは二十  
 六歳のときだそう。その時、右の骨盤の骨  
 をけずって、左の骨が足りない部分に移植す  
 る手術を受けたそう。今は完治しているけ  
 ど歩行困難になっている。ちなみに、今の時  
 代に、もし結核になつてしまつたら約三ヶ月  
 で完治するそう。

(不許複製)

5. 読みやすいように、ピリオドを適切につけましょう。
6. 人が話した内容を「」のなかに入れます。
7. 漢字をかなづから漢字にする場合は「」で囲みます。
8. 書きおとしたら、一回を繰り返さないで、また書き直さないでください。



1. 題目は、一行めの三ばいめか四ばいめのマスから書きましょう。
2. 学校・学年・組・氏名は一行めに書きましょう。
3. 文章は三行めから一字きけて書きはじめましょう。
4. 文章の横線をしっかり立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字きけて書きはじめ、一つの段落が終わったら行を空けましょう。

（ ） 月 日 曜日

そんなことをおぼあちゃんから聞いて、少し福祉に興味をもった。そんな中、学校に福祉施設の方々が来てくださった。足が悪い人、視覚障がい者、聴覚障がい者、お年寄りの方々の介護の仕方せ、話し方など詳しく教えていただいた。特に驚いたことは、視覚障がい者と一緒には歩くとときは、視覚障がい者よりも半歩前に出て歩くことだ。半歩前より隣で歩いた方が安心すると思っていたからだ。その後、実際に体験をした。視覚障がい者の体験

中学校

では、アイマスクを着用して体験した。視界が真っ暗になつて立っているだけでも怖かった。まづいてしまふ。お年寄り体験では、両手両足におもりを着けて、眼鏡を着けて視界を悪くし、手袋を着けて体験した。新聞をめくったり、字を読んでもたりしたけど、単純な動作なのに自分の思つた通りに動きにくくて、どうしても一つの動作に時間がかかつてしまった。車いす体験は二人一組になつて乗る人

(不許複製)

5. 読みやすいように、と・とをしっかりとつけましょう。と・とは、それぞれ一字にかぎって、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
6. 人が読んだところは、「」のなかに入れましょう。「」は、それぞれ一字にかぎってマスのなかに入れましょう。
7. 漢字やかなづかいに気をつけ、特に「は」と「わ」、「へ」と「た」、「は」と「を」をしっかりと使いわけましょう。
8. 書き終わった後、何回も読み直し、まちがいをなおして、たりないところは書き直さず、むだなことをけずりましょう。



1. 題目は、「行めの三はたかめが四はんめのマスから書きましょう。」
2. 学校・学年・組・氏名は「行めに書きましょう。」
3. 文章は「行めから」までだけで書きはじめましょう。
4. 文章の種別をしっかりと立ててから書きはじめましょう。各段落のはじめはかならず一字だけで書きはじめ、一つの段落が終わったならば空をえましょう。

（ ） 月 日 曜日

と、押す人に分かれて体験した。押す側にな  
 っ、ているときは、下り坂を後ろ向きで下りて  
 いき、スビードを調整するのが難しかった。  
 乗る側になつたときに手で車輪を動かして  
 ると、平たんな道はまだ大丈夫だ。たけど、  
 登り坂はとも一人では無理だつた。また、  
 ミつの体験では共通して階段や小さな段差が  
 一番怖くて難しかった。視界障がい者体験で  
 は、白杖を上手に便わないと転びそうになつ  
 た。またお年寄り体験では、両足におもりが

中学校

つ、いているし、腰もまっすぐ伸ばせなかつた  
 ので、一段登るのも時間をいっもの倍以上使  
 うし、疲れもいつもの倍以上あつた。なによ  
 り、車いす体験での小さな段差は絶対に一人  
 では乗り越えられない。体験のときは、ペア  
 が一緒にいたから乗り越えることができたけ  
 ど、もし一人だつたらと考えると、とても不  
 自由だつた。  
 体験したことをおぼあちんに話すと、一  
 つの言葉が心にとまつた。

(不詳複製)

5. 読みやすいように、とをしっかりとつけましょう。ととは、それを空に空をえて、マスのなかの右上のほうにつけましょう。
6. 人が読んだら「は」「の」のなかに入れましょう。「」は、それぞれ一字にかぎえてマスのなかに入れましょう。
7. 漢字やかなづかいに気をつけ、「様」は「と」「わ」「へ」と「え」、「お」と「を」をしっかりと使いかけましょう。
8. 書き終わったら、何回も読み直し、まちがいをなおして、たりないところは書き直し、むだなことをけずりましょう。



